令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	医学総論	●講師名	喬　炎
●授業のねらい	言語聴覚士の資格の修得を目的として医学・医療・保健・福祉の現状を理解する		
●学習目標	先ず、健康と疾病の概念、疾病の原因と発生機序についての学習をする。そして、感染症や悪性腫瘍などの病態の発生を理解する。さらに、医療行為の過程における倫理や環境改善に基く保健医療と生活習慣病などの疾病予防の重要性について学習する。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	健康と疾病	健康とは何か。疾病の定義など
2	疾病の原因と発生機序	疾病の外因、内因。なぜ疾病が発生するか。オンライン
3	人体の構造と機能からみた疾病	解剖生理学の知識を活用して疾病の症状や病態を理解する。オンライン
4	炎症	炎症とその病態　オンライン
5	感染症	コロナウイルスの感染がなぜ怖いか、感染症を引き起こす病態　オンライン
6	腫瘍と生活習慣病	良悪性腫瘍、糖尿病、心筋梗塞など　オンライン
7	医療関連課題	福祉・医の倫理・ＱＯＬ・チーム医療,母子・成人・老人保健の特性など　オンライン
8	定期試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

●成績評価	
●教科書	
●参考書	
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	解剖学	●講師名	寺島俊雄
●授業のねらい	人体の構造の基礎を理解する。		
●学習目標	１）細胞学、組織学の学習を通じて人体を構成する素材について理解する。 ２）消化器系・呼吸器系・循環器系・泌尿器系の構造を理解する。 ３）運動器（骨格系、関節、筋系）の構造と作用を理解する。 ４）内分泌系、生体防御系（免疫）の学習を通じて生体調節機構を理解する。 ５）神経系や感覚器の学習を通じて脳や脊髄がどのように感覚を受容し、計算して、出力するか理解する。 ６）受精、初期発生、器官発生の学習を通じて人体の発生と発達について理解する。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	細胞学と組織学	オンデマンド：細胞膜、細胞小器官、四大組織について学ぶ
2	骨格系	オンデマンド：骨学、関節学について学ぶ
3	筋系	オンデマンド：筋学について学ぶ
4	循環器系	オンデマンド：心臓、動脈系、静脈系、リンパ系について学ぶ
5	神経系（１）神経組織学	オンデマンド：神経組織学について学ぶ
6	神経系（２）中枢神経系	オンデマンド：中枢神経系について学ぶ
7	神経系（３）末梢神経系	オンデマンド：末梢神経系について学ぶ
8	呼吸器系	オンデマンド：呼吸器系について学ぶ
9	消化器系	オンデマンド：消化器系について学ぶ
10	泌尿生殖器系	オンデマンド：泌尿器系と生殖器系について学ぶ
11	感覚器（１）	オンデマンド：皮膚、体性感覚器と視覚器について学ぶ。
12	感覚器（２）	オンデマンド：聴覚器、嗅覚器、味覚器について学ぶ。
13	内分泌系	オンデマンド：内分泌系について学ぶ。
14	免疫と生体防御	オンデマンド：免疫系について学ぶ。
15	人体の発生	オンデマンド：受精、初期発生、器官発生について学ぶ

●成績評価	毎回 レポートを課す。この15回分のレポートの合計点（100点満点）で評価する。
●教科書	配布資料に基づき講義を進めるので、教科書は特に定めない。
●参考書	大谷修著「メディカルマスター解剖学」（オーム社）；坂井・岡田著「解剖生理学」（医学書院）他
●備考	レポートは自由記述ではなく、空欄穴埋め、記述式、多肢選択式等で採点可能な形式にする。

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	生理学	●講師名	七戸和博
●授業のねらい	言語聴覚士として基本と成る身体の働き、特に、言語聴覚学の基礎を理解することを目的とする。		
●学習目標	言語聴覚士を目指す学生として、即、現場で対応できる即戦力を培うことを目標とする。		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	生理学とは？	元素から細胞、組織、器官、器官系から人体へ
2	体液について	体液の組成と血液の組成と働きについて
3	生体防御について	生体防御における白血球の役割について
4	循環器系について	循環器系の構造と機能
5	呼吸器系について	呼吸器系の構造と機能
6	消化器系について	消化とは、消化器系の構造と機能
7	吸収と代謝について	吸収、代謝とは
8	体温について	体温と体温調節
9	泌尿器系について	泌尿器系、特に尿生成について
10	内分泌系について	内分泌（ホルモン）とは
11	神経系について（１）	中枢神経系について
12	神経系について（２）	末梢神経系について
13	感覚生理について	感覚生理、特に聴覚について
14	運動系について	運動生理学とは
15	定期試験	

●成績評価	試験と授業態度で評価します。
●教科書	人体の構造と機能　内田さえ他編　医歯薬出版
●参考書	標準生理学　医学書院
●備考	

令和3年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	病理学	●講師名	福井謙二
●授業のねらい	病気における生体の変化を解説し，専門用語を整理する．病理学はしばしば基礎医学と臨床医学の境界領域に位置づけられるが，この授業で習得した知識や考え方が臨床医学の場で発展されることを目指す．		
●学習目標	疾病の原因によって生じる形態学的な変化と，引き起こされる機能的障害を説明することができる． 病理学総論として，全身の各臓器に共通な病変を分類し説明することができる． 病理学各論として，各臓器・系統別に疾病の原因，経過から終焉までの流れを説明することができる．		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	病理学概説，病因論	疾病の原因と成り立ち
2	先天異常・奇形	先天異常・奇形の定義，分類，病態
3	退行性病変	退行性病変の種類，病態
4	進行性病変	進行性病変の種類，病態
5	循環障害	循環障害の病因，病態
6	炎症	炎症の定義，分類，病態
7	免疫，感染症	免疫が関係する疾患の成因，病態．感染症の種類
8	腫瘍	腫瘍の定義，分類，病態
9	循環器系の疾患	心臓の疾患．脈管の疾患
10	呼吸器系の疾患	鼻腔，咽頭，喉頭の疾患．肺の疾患
11	消化器系の疾患	口腔，食道の疾患．胃の疾患．腸の疾患．肝臓・胆管・胆嚢の疾患．膵臓の疾患
12	腎，泌尿器，生殖器系の疾患	腎臓，泌尿器系の疾患．男性生殖器，女性生殖器の疾患
13	神経系の疾患	脳・神経系の疾患
14	運動器系の疾患	骨，関節，筋の疾患
15	定期試験	

●成績評価	定期試験（100%）
●教科書	系看 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進［1］ 病理学　第6版 大橋健一著 医学書院
●参考書	なし
●備考	

令和4年度授業計画　　日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	総合演習Ⅰ	●講師名	専任教員
●授業のねらい	言語臨床においては、幅広い領域の専門知識を俯瞰し、統合的な視点にたつことが求められる。総合演習Ⅰでは、総合的な視点に触れ、その視点を説明できることがねらいとなる。		
●学習目標	言語臨床の軸となる基本的視点を学ぶ。 コミュニケーション障害のある方の社会生活上の困難、考えていることを理解する。 また、臨床家がアプローチするにあたっての姿勢を理解する。		
●方法	講義　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	学習環境と規定	4月1日
2	感染対策①山本	4月18日
3	感染対策②山本	4月18日
4	個人情報/ハラスメント	
5	リスクマネジメント①水尻	
6	リスクマネジメント②水尻	
7	失語症「笑顔の授業」①	7月25日
8	失語症「笑顔の授業」②	7月25日
9	見学ガイダンス	
10	見学まとめ	
11	メンタルヘルス	
12	就職について	
13	病院見学ガイダンス	
14	観察１	
15	観察２	
16	観察３	
17	観察４	
18	観察５	
19	観察６	
20	社会的処方１	
21	社会的処方２	
22	社会的処方３	
23	社会的処方４	
24	社会的処方５	

●成績評価	出席＋授業態度＋レポート
●教科書	なし
●参考書	なし
●備考	講義担当者・内容・時期・評価方法については調整中。確定後に掲示する。

学習方法、感染対策、当事者体験、臨床見学、研修会や学会への参加・運営等（計24コマ相当）

令和4年度授業計画

●科目名	内科学	●講師名	小野正博
●授業のねらい	内科の各領域のアプローチ法と代表的疾患を理解できる		
●学習目標	・内科の各領域のアプローチ法を理解する　・内科の代表的疾患を理解する		
●方法	講義及び演習		

●授業計画

回数	項目	内容
1	内科学総論Ⅰ	人間の正常な生理構造、正常から病気への過程、診察のしかた、症候論①
2	内科学総論Ⅱ	症候論②
3	感染症	感染症へのアプローチ、各疾患
4	循環器疾患	循環器疾患へのアプローチ、各疾患
5	呼吸器疾患	呼吸器疾患へのアプローチ、各疾患
6	消化器疾患	消化器疾患へのアプローチ、各疾患
7	腎疾患	腎疾患へのアプローチ、各疾患
8	内分泌疾患	内分泌疾患へのアプローチ、各疾患
9	糖尿病、代謝疾患	糖尿病、代謝疾患へのアプローチ、各疾患
10	神経疾患	神経疾患へのアプローチ、各疾患
11	アレルギー、膠原病	アレルギー、膠原病へのアプローチ、各疾患
12	血液疾患	血液疾患へのアプローチ、各疾患
13	老年症候群	老年症候群へのアプローチ、各疾患
14	過去の試験問題の演習	
15	試験	

●成績評価	授業態度、試験の点数
●教科書	「言語聴覚士テキスト」（医歯薬出版株式会社）、配布資料
●参考書	「わかりやすい内科学」（文光堂）、家庭の医学書（なんでも可）
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	小児科学	●講師名	東京大学医学部附属病院小児科
●授業のねらい	言語聴覚士に必要な小児科学の知識を習得する		
●学習目標	小児の正常状態と病的状態を区別し、理解できる		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	小児の成長・発達	鹿嶋晃平先生
2	新生児医学	
3	感染症	太田英仁先生
4	発達障害・運動器疾患	内野俊平先生
5	先天性心疾患	益田瞳先生
6	消化器疾患	梶保祐子先生
7	血液腫瘍性疾患	日髙もえ先生
8	てんかん・脳性麻痺	佐藤敦志先生
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

●成績評価	レポート課題
●教科書	
●参考書	
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	精神医学	●講師名	鈴木康弘
●授業のねらい	主たる精神疾患の全体像を理解する		
●学習目標	様々な精神疾患について偏見なく理解と共感ができる。 精神科薬物療法について一定の理解ができる。 臨床現場で精神疾患の知見が有用であることを学び、支援対象者への援助を適切に理解できる。		
●方法	(講義)・演習・(その他)レポート課題		

●授業計画

回数	項目	内容
1	精神医学概論	講義概論、授業や試験、レポート課題、初回アンケート
2	気分障害、統合失調症	うつ病、双極性障害、統合失調症の概説
3	不安症、恐怖症、身体症状症、解離症	不安障害、強迫性障害、心身症などの概説
4	ストレス性障害、摂食障害、依存・嗜癖	解離性障害、PTSD、摂食障害、アルコール依存などの概説
5	睡眠障害、せん妄、人格障害	睡眠障害、せん妄の概説
6	発達障害、認知症	自閉スペクトラム症、認知症の概説
7	精神科薬物療法、錐体外路症状など	向精神薬（抗精神薬、抗うつ薬など）と副作用の概説
8	定期試験	マークシート方式を予定
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

●成績評価	定期試験、レポート課題、授業出席、確認テスト提出、授業態度（コメント回答の内容等）
●教科書	版 山下格 著　大森哲郎 補訂
●参考書	レポート課題の詳細は授業内で説明する。
●備考	COVID-19の状況が未だ不透明なため、全7回の授業はオンライン講義＋定期試験を実施予定である。授業出席は毎回の開始時に事務局が点呼を取るため、それに応じて返答すること。

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	リハビリテーション医学	●講師名	三原啓正(言語聴覚士)　畠田将行(理学療法士) 杉谷翔(作業療法士)　射手矢詠実子(管理栄養士) 中基くるみ(歯科衛生士)　内海晃紀(社会福祉士)
●授業のねらい	チームアプローチにおける様々な職種の役割を理解し言語聴覚士としての役割を身に付ける		
●学習目標	チームアプローチの概念を理解し説明できる。 言語聴覚士としての倫理と役割を考え、多職種連携の概念を説明できる。 理学療法士,作業療法士,管理栄養士,歯科衛生士および社会福祉士等の他職種を理解し説明できる。		
●方法	(講義)・演習・その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	リハビリテーションとチームアプローチの意義(三原)	対面方式：障がいとリハビリテーション医学の関係
2	リハビリテーション専門職の役割(三原)	対面方式：専門職の種類や特徴・役割
3	医療者になるための準備①(三原)	対面方式：対人援助職としての心構え 他職種の理解と協働 グループワーク
4	医療者になるための準備②(三原)	
5	言語聴覚士になるための準備①(三原)	対面方式：自分自身の理解 臨床で役立つコミュニケションスキルを備える グループワーク
6	言語聴覚士になるための準備②(三原)	
7	理学療法士①(畠田)	対面方式：理学療法士の役割と職域 STが知っておくべき理学療法士のこと
8	理学療法士②(畠田)	
9	作業療法士①(杉谷)	対面方式：作業療法士の役割と職域 言語聴覚士が知っておくべき作業療法士のこと
10	作業療法士②(杉谷)	対面方式：作業療法体験、MTDLPの理解
11	社会福祉士(内海)	対面方式：社会福祉士の役割と職域 STが知っておくべき社会福祉士のこと
12	管理栄養士(射手矢),歯科衛生士(中基)	対面方式：管理栄養士の役割と職域、STが知っておくべき管理栄養士のこと 対面方式：歯科衛生士の役割と職域、STが知っておくべき歯科衛生士のこと
13	チームアプローチの考え方(三原)	対面方式：言語聴覚士が対象者や他職種から求められること
14	チームの中での言語聴覚士(三原)	
15		

●成績評価	レポート試験
●教科書	指定なし
●参考書	授業内で配布
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	耳鼻咽喉科学	●講師名	鴫原俊太郎　中村一博　松﨑洋海
●授業のねら	耳鼻咽喉科学の基礎を習得し、その上で各種疾患の診断・治療について理解する		
●学習目標	耳鼻咽喉科学領域に必要な解剖・生理学知識を習得する。 各種疾患における病理を理解する。 各種疾患に対する検査法や治療法を理解する。		
●方法	講義　演習　その他		

●授業計画

回数		項目	内容
1	鴫原	耳科学基礎	耳科領域の解剖、生理
2		耳科学臨床	耳科疾患の病態生理
3		耳科学疾患への対処	耳科疾患の治療・対処法
4		平衡神経学基礎	平衡神経学に関係する解剖・生理
5		平衡神経学臨床	神経耳科疾患の病態生理・治療
6	中村	頭頸部腫瘍1	頭頸部悪性腫瘍
7		頭頸部腫瘍2	頭頸部良性腫瘍
8		気管食道1	気管食道疾患
9		気管食道2	緊急気道確保
10		嚥下障害1	嚥下障害の診断
11		嚥下障害2	嚥下障害の治療
12	松﨑	喉頭科学１	喉頭の解剖・生理・検査法
13		喉頭科学２	喉頭の炎症性疾患
14		喉頭科学３	喉頭腫瘍・神経障害・音声障害
15	まとめ試験		

●成績評価	試験
●教科書	新耳鼻咽喉科学　改定11版　南山堂
●参考書	授業内で配布する□
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	臨床神経学	●講師名	住吉　克彦
●授業のねらい	言語聴覚士としての診療に必要な病態、検査、治療について学ぶ		
●学習目標	神経学として臨床に必要な基礎知識を含め、臨床の場で行われている診療、検査、治療法について学ぶ。特に必要な神経症候や他科目でも重要な高次機能障害をよく理解し、国家試験から臨床の場において役に立つ知識を身に付ける事を目標とする。		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	運動障害	脳血管障害から変性疾患について
2	変性疾患	運動失調、パーキンソン病、歩行障害について
3	感染症・脱髄性疾患	脳炎、脳膿瘍、多発席硬化症を中心に
4	脳腫瘍	脳・脊髄腫瘍の分類と好発部位について
5	頭部外傷	硬膜外血種と硬膜内血種について
6	末梢神経疾患	ニューロパチー、ギランバレー症候群を中心に
7	筋疾患	運動麻痺とジストロフィーを中心に
8	テスト	

●成績評価	学期末試験において評価をする。内容的には国家試験に準拠した選択問題ならびに記述問題
●教科書	病気が見えるVol７「脳・神経」（メディックメディア社 人体の正常構造と機能　第4版（日本医事新報社）
●参考書	医学生・研修医のための神経内科学 改訂3版（中外医学社）
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	形成外科学	●講師名	松村　一　・他
●授業のねらい	言語聴覚士に必要な形成外科学の知識を習得する。		
●学習目標	・唇裂口蓋裂に関する基本的事項、治療の流れ、言語療法士に必要な知識を習得する。 ・頭頚部外科に関する基本的事項、治療の流れ、言語療法士に必要な知識を習得する。 ・形成外科一般に関する基本的事項、治療の流れを理解する		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	形成外科学総論	a 皮膚の解剖と生理 b 創傷治癒 c 熱傷（顔面熱傷も）
2	組織移植	a. 遊離植皮、b.皮弁
3	顔面、外傷、潰瘍	a 顔面外傷、顔面骨折　　b 顔面神経麻痺　c 褥瘡・下腿潰瘍
4	口唇裂	a 分類、発生、原因　b 手術時期、術式　c 二次手術
5	口蓋裂	a 口蓋の解剖　b 手術時期、術式　c 開鼻声 d 頭蓋・顔面の異常
6	皮膚疾患	a. 瘢痕とケロイド、b.皮膚の良性・悪性腫瘍
7	頭頚部疾患	a. 頭頚部外科手術に伴う変形、b. 機能障害
8	定期試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

●成績評価	MCQによる試験成績、評価は定期試験の成績にて行うが、出席日数等を加味する場合もある
●教科書	なし
●参考書	なし
●備考	全部Zoomによるリアルタイム

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	総合演習Ⅱ	●講師名	専任教員
●授業のねらい	言語臨床においては、幅広い領域の専門知識を俯瞰し、統合的な視点にたつことが求められる。 総合演習Ⅱでは、障害のある方の現状や生活を知り、多職種でのアプローチを理解することがねらいとなる。		
●学習目標	障害のある方の現状、生活を推測することができる。 実態について説明することができる。 多職種でのアプローチの実際の例を複数あげることができる。		
●方法	講義　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	ガイダンス	8/29 前期講義のフィードバック
2	ガイダンス	8/29 今後の講義の進め方
3	失語症の認知神経心理学アプローチの実際	
4	失語症の認知神経心理学アプローチの実際	
5	失語症の認知神経心理学アプローチの実際	
6	失語症の掘り下げ検査の種類と目的	
7	失語症の掘り下げ検査の種類と目的	
8	失語症の掘り下げ検査の種類と目的	
9	新宿ことばの相談室の見学	ガイダンス
10	新宿ことばの相談室の見学	見学
11	新宿ことばの相談室の見学	フィードバック
12	当事者と話そう①	11/12 失語症当事者の話を聴く
13	当事者と話そう②	11/12 失語症当事者の話を聴く（質疑応答含む）
14	就職・実習オリエンテーション	
15	ライティング	ワークショップ形式
16	ライティング	ワークショップ形式
17	感染対策	8/29 感染対策ルール、学校対応、実習について
18	総合実力到達度チェック	午前
19	総合実力到達度チェック	午後

●成績評価	出席＋授業態度＋レポート
●教科書	なし
●参考書	なし
●備考	講義担当者・内容・時期・評価方法については調整中。確定後に掲示する。

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	臨床歯科医学・口腔外科学	●講師名	道　健一
●授業のねらい	口腔・顎・顔面の構造、機能およびその疾患の診断・治療について講義する。		
●学習目標	口腔・顎・顔面の形態、機能を理解し、その部位の疾患の概念を理解する。併せて、歯科医学的な治療の概念および歯科医学な治療の特徴を生かした機能障害の診断・治療の概要を理解する。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	序章：歯科概論。第1章、歯・口腔・顎・顔面の構造と機能１	１、歯科医療の歴史と現況、２．歯科医療における言語聴覚士の役割。３、歯・口腔・顎・顔面の形態と構造（１）。
2	第１章、歯・口腔・顎・顔面の構造と構造２	１、歯・口腔・顎・顔面の形態と構造（２）。２、歯・口腔・顎・顔面の発生、発育（１）
3	第１章、歯・口腔・顎・顔面の構造と構造３	２、歯・口腔・顎・顔面の発生、発育（２）。３、歯・口腔・顎・顔面の機能
4	第１章、歯・口腔・顎・顔面の構造と構造４	４、口腔の診察法
5	第２章、歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置１	１、う蝕、歯髄炎、歯根膜炎。２、歯周病。
6	第２章、歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置２	３、歯列不正。４、歯の欠損、５、歯の萌出・数・形態・形成の異常。６、口腔ケア
7	第３章、口腔・顎・顔面の疾患１	１、口腔・顎・顔面の先天異常、発育異常
8	第３章、口腔・顎・顔面の疾患２	２．口腔・顎・顔面の損傷、３、口腔・顎・顔面の炎症、感染症
9	第３章、口腔・顎・顔面の疾患３	４．口腔・顎・顔面の嚢胞および類似疾患
10	第３章、口腔・顎・顔面の疾患４	５、口腔・顎・顔面の腫瘍および類似疾患
11	第３章、口腔・顎・顔面の疾患５	６、唾液腺疾患、７、口腔・顎・顔面の神経系疾患、疼痛性疾患、心因性病態
12	第３章、口腔・顎・顔面の疾患６	８、顎関節疾患、９、口腔粘膜疾患
13	第４章、咀嚼・摂食・構音障害に対する歯科医学的治療法１	１、手術療法、
14	第４章、咀嚼・摂食・構音障害に対する歯科医学的治療法２	２、人工材料による機能回復、３、再建と機能回復
15	試験	マークシート方式

●成績評価	定期試験（マークシート方式）
●教科書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学−器質性構音障害、第2版：医歯薬出版
●参考書	授業時にプリントを配布する。
●備考	基本は対面授業、コロナ感染症が制御されなければオンライン授業、

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	●講師名	佐々木俊一
●授業のねらい	呼吸器・発声器官の解剖・生理・病態を通して疾病を理解する		
●学習目標	呼吸器・発声気管の構造・機能・病態を理解する		
●方法	講義　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	オリエンテーション・基礎事項	頭頸部・呼吸の解剖・脳神経について解説する
2	口腔・咽頭の構造と機能	口腔・咽頭の解剖・機能について解説する
3	呼吸器の構造と機能	呼吸器の解剖・機能について解説する
4	呼吸機能検査	主にスパイロメトリー・フローボリューム曲線について解説する
5	喉頭の構造と機能①	喉頭の解剖について解説する
6	喉頭の構造と機能②	喉頭の機能について解説する
7	発声のメカニズム	発声の仕方、主に声帯振動を中心に解説する
8	小テスト(構造・機能)	1～7回目までの範囲の試験で病態の理解を深める
9	口腔・咽頭の病態	口腔・咽頭の疾患について解説する
10	音声障害①　－良性疾患－	声帯ポリープをはじめとする音声障害を引き起こす疾患を解説する
11	音声障害②　－悪性疾患－	喉頭がんの診断・治療について解説する
12	音声障害③　－機能性発声障害－	器質的変化のない音声障害を引き起こす疾患を解説する
13	反回神経麻痺と甲状腺疾患	反回神経麻痺・甲状腺疾患の診断・治療について解説する
14	呼吸器の病態	呼吸器疾患について解説する
15	定期試験(本試験)	国家試験の出題形式を用いた形で出題する

●成績評価	本試験80%　小テスト15%　授業態度5%
●教科書	毎回配布するプリントを使用
●参考書	言語聴覚士のための耳鼻咽喉科学
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	聴覚系の構造・機能・病態	●講師名	山本　桂
●授業のねらい	聴覚の基本や疾患を理解する		
●学習目標	他者とのコミュニケーションだけでなく、貴重な情報源でもある聴覚に関して、聴覚の構造・メカニズムさらには、障害を理解する。 聴覚障害によりどのようなことが起こるのか中枢への影響も含めて理解を深める。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	オリエンテーション・聴覚機能とは	音とはなどの聴覚の基本・グループでのセッション
2	聴覚の構造と機能①（外耳・中耳）	外耳・中耳の解剖・構造
3	聴覚の構造と機能②（内耳）	内耳の構造と機能について
4	聴覚の構造と機能③（中枢）	脳に音刺激を伝える神経について
5	聴覚障害とは①（伝音性）	伝音難聴のしくみ
6	聴覚障害とは②（感音性）	感音難聴のしくみ
7	聴覚障害とは③（後迷路性）	後迷路性難聴のしくみ
8	難聴の評価方法	難聴を評価するための検査について
9	小テスト	前半のまとめのテスト
10	難聴をひきおこす疾患①（伝音性）	伝音難聴を生じるの疾患について
11	難聴を引き起こす疾患②（感音性）	感音難聴を生じる疾患について
12	難聴を引き起こす疾患③（中枢性）	中枢障害によって生じる難聴疾患について
13	難聴を引き起こす疾患④（その他）	遺伝性など、様々な要因によって生じる難聴について
14	聴覚中枢の働きからリハビリテーションへ	聴神経から大脳聴覚野についてと治療に用いる装具について
15	テスト	まとめのテスト

●成績評価	出席点１０点＋小テスト２０点＋まとめテスト７０点　合計１００点
●教科書	「よくわかる聴覚障害 難聴と耳鳴のすべて・ 病気がみえる　vol.13 耳鼻咽喉科　MEDIC MEDIA
●参考書	永井書店「新耳鼻咽喉科学」11版 南山堂
●備考	毎回の小テストで出席を確認します　参考書も使用しますので、ご用意くださると助かります。

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	神経系の構造・機能・病態	●講師名	住吉　克彦
●授業のねらい	言語聴覚士に必要な知識として、神経内科学につながる「脳・神経」系の基本を講義する		
●学習目標	言語聴覚士をめざして学習に取り込む学生に対して、臨床にて必要な神経内科学、高次脳機能障害学を学ぶ上での基本的知識としての神経解剖学、神経生理学、神経科学について講義を行う。また、診療の場で必要な神経可塑性について、神経回復と再生のメカニズムについて学習をし、機能回復の対象となる中枢神経系の障害をきたす各種疾患の病態の理解を深める他，治療体系の中におけるリハビリテーションの位置づけなどを身につけることを目標とする。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	脳神経総論	脳神経の全体像と栄養血管について
2	神経細胞から組織について	神経の細胞の性質と脳組織の機能について
3	大脳について	大脳における構造と機能について
4	大脳辺縁系と大脳基底核	大脳辺縁系、偏桃体、海馬の構造と機能について
5	間脳と脳幹	視床、視床下部、中脳、橋、延髄の構造と機能について
6	小脳について	運動機能と言語に関わる機能について
7	脳血管と血管障害	脳血管と脳出血
8	脳室の構造機能	脳室系の構造、髄液の産生と循環
9	脳室の異常	頭蓋内圧亢進「脳浮腫、脳ヘルニア」
10	運動と感覚①	運動と反射、自律神経について
11	運動と感覚②	運動の異常、調節、感覚の正常と異常について
12	脳の記憶と学習メカニズム①	機能と異常、特に認知症を中心に
13	脳の記憶と学習メカニズム②	アルツハイマー、脳血管認知症の病態生理
14	脳神経①	末梢神経の脳神経12神経と脊髄神経の正常機能と障害について
15	テスト	

●成績評価	学期末試験において評価をする。内容的には国家試験に準拠した選択問題ならびに記述問題
●教科書	病気が見えるVol7「脳・神経」(メディックメディア社) 人体の正常構造と機能　第4版(日本医事新報社)
●参考書	医学生・研修医のための神経内科学 改訂3版(中外医学社)
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	認知・学習心理学	●講師名	鈴木康弘
●授業のねらい	臨床の基礎となる「認知・学習心理学」を学ぶ。		
●学習目標	心理学における「認知」「学習」という表現の意味を正確に理解できる。 臨床現場において「認知・学習心理学」のが有用であることを学ぶ。 行動分析学について学ぶ。		
●方法	講義　・　演習　・　その他（レポート課題）		

●授業計画

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	講義概論、授業や試験、レポート課題、初回アンケート
2	臨床現場で有効となる認知・学習心理学	臨床現場での有用性を概説する
3	総論：「認知」「学習」	心理学における「認知」「学習」という表現の意味を学ぶ
4	馴化と鋭敏化	ヒトや動物の出来事の経験から生じる学習について学ぶ
5	古典的条件づけ①	古典的条件づけ（レスポンデント条件づけ）の基本的特徴
6	古典的条件づけ②	信号機能・学習の内容と発現システム
7	オペラント条件づけ①	オペラント条件づけとは何か
8	オペラント条件づけ②	強化、消去と罰、強化スケジュールについて
9	オペラント条件づけ③	刺激性制御・・・弁別と般化について
10	概念学習・観察学習・問題解決	日常場面で起きる様々な学習について
11	記憶と学習	学習心理学における記憶について
12	エピソード記憶とメタ認知	出来事に関する記憶や、メタ認知について
13	行動分析学入門	オペラント条件づけが前提となる行動分析学について
14	認知行動療法との関連性について	認知心理学の応用と認知行動療法との関連について
15	定期試験	マークシート方式＋記述方式（予定）

●成績評価	定期試験、レポート課題、授業出席、確認テスト提出、授業態度（コメント回答の内容等）
●教科書	学習の心理　第2版　行動のメカニズムを知る　サイエンス社　2019年12月1日発行
●参考書	レポート課題は2種類を予定している。詳細は授業内で説明する。
●備考	COVID-19の状況が未だ不透明なため、全14回の授業はオンライン講義＋定期試験を実施予定である。授業出席は毎回の開始時に事務局が点呼を取るため、それに応じて返答すること。

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	心理測定法	●講師名	上田卓司
●授業のねらい	本科目では「心的な現象を」いかに測定するか，印象判断や思い込みを超えた「心に関する事実の裏付け」を得るための観点や技法を解説することを主眼とする．本講義により印象や思い込みのあり方を超えた，心理・行動エビデンスを得るのに必要な知識とスキルの獲得を目指してもらう．また，心理・行動に関するデータやその解釈・主張についての妥当性を適切に評価できるための視点と基礎知識を得てもらうことも本講義の大きな目的となる		
●学習目標	心理測定に関する基本的な用語や考え方を把握する 心理・行動データを得るための主要な技法を把握する 心理・行動データやその結果を適切に評価できるための視点や知識を得る		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	導入	エビデンスと「適切な」測定 / 測定とは / 測定の計画・実施・解析
2	測定データと変数	データの測定方法：実験・調査・行動観察・面接 /測定と変数 / 変数の区分と尺度水準
3	実験的測定法	実験とは / 実験の構成要素 / 独立変数と従属変数の関係 / 剰余変数の統制法：除去・恒常化，ランダマイズ，均衡化
4	実験計画と剰余変数の統制	測定における要因と要因計画 / Fisherの三原則 /ランダム化比較試験
5	少数事例計画と応用行動分析	少数事例計画 / 応用行動分析について / 除去（ABA）/多重ベースライン法
6	測定結果の処理：統計と確率	データとばらつき / 1変数，2変数の記述統計 / 確率と統計的推測の基礎
7	心理物理学的測定：閾の性質	心理物理学（的測定）とは/閾と閾値；絶対閾，刺激頂，弁別閾 /弁別閾の性質；Weber-Fechnerの法則，Stevensのべき法則
8	心理物理学的測定：閾値の測定	閾値の測定法；調整法，極限法，恒常法，適応的測定（上下法など）
9	信号検出理論	信号検出理論の考え方 2×2分割表と意思決定 / 偽陽性，偽陰性，感度，特異度 / ROC と d’ / 信号検出理論を用いた研究事例
10	評定データと尺度構成法	評定データとは / （SUD;自覚的不快単位など）/ 順位法 / 間接尺度構成と直接尺度構成（等現間隔法，倍数法；メル尺度，ソン尺度など）/ マグニチュード推定法の応用（ストレス度）/ 多次元的尺度構成
11	質問紙調査の方法	調査とサンプリング / 無作為抽出と有意抽出（完全無作為抽出，層化2段抽出など）
12	質問紙の構成と評価	質問紙の選択と作成 / 質問項目のワーディング と配列 / 質問項目の評価法
13	観察法と面接法	観察法とは / タイムサンプリング法 / 行動カテゴリーの設定 / 面接法と言語データの扱い
14	測定における信頼性と妥当性の評価	信頼性，妥当性とは / 信頼性の確認法：平行検査，再検査．折半法，内部一貫法　/ 妥当性の検討
15	まとめ	

●成績評価	ほぼ毎回，授業参加確認手段を兼ねた小テストを実施する．また，この小テストを基に，授業最終回に大きな課題を実施する．成績評価はこれらの課題の結果を総合的に判断し決定する．
●教科書	購入義務のある教科書は指定しない
●参考書	配布資料（レジュメ）を用意する．またレジュメにはトピックに合わせて読書案内を掲載する
●備考	一部のトピックでは，統計学的な内容を含む．必要に応じ解説するが，統計学の基礎については自学自習に励まれたい オンデマンド式の講義を前提とするが，希望があればZoom等を活用するリアルタイムでの質疑応答も実施したい

令和4年度授業計画　　日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	臨床心理学	●講師名	中村久美
●授業のねらい	臨床心理学の基礎知識を身につける。		
●学習目標	1）臨床心理学の主な課題領域について理解し説明できる。2）理解をもとに適切に記述、発表、討論できる。		
●方法	講義　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	オリエンテーション パーソナリティのとらえ方	授業の進め方を共有する 人格理論
2	異常心理学	診断基準について
3	心理臨床的な問題（1）	病態水準の考え方（精神病／境界例／神経症）
4	心理臨床的な問題（2）	発達にまつわる問題
5	臨床心理査定（1）	アセスメントの方法・導入と見立て
6	臨床心理査定（2）	心理査定（心理テスト）の種類・心理検査結果の伝え方
7	心理療法（1）	精神分析
8	心理療法（2）	クライエント中心療法
9	心理療法（3）	遊戯療法
10	心理療法（4）	行動療法
11	心理療法（5）	認知療法
12	心理療法（6）	集団心理療法
13	心理療法（7）	コラージュ実習
14	心理療法（8）	家族療法
15	定期試験	

●成績評価	定期試験（60%）、出席率（40%）
●教科書	使用しない
●参考書	面白いほどよくわかる！臨床心理学　　下山晴彦（監修）　　西東社
●備考	オンデマンド時は提出期限付きの視聴確認レポートを実施する

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	生涯発達心理学	●講師名	岡野晶子
●授業のねらい	発達心理学の基礎的な知識を身につける。		
●学習目標	・胎児期から老年期の発達段階の特徴や各々の段階特有の課題とそれを乗り越える糸口を理解する。 ・発達の基本的な枠組み、理論についてその違いや変遷を説明できる。 本講座では、自分の心の理解を深め、他者の心の理解に役立つ基礎知識を身に付け、「生涯発達」の観点から、心の働きを深く理解し、支援に役立てることを目標とする。		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、発達研究の歴史
2	発達とは何か	発達の研究法、発達段階と発達課題、発達の要因
3	胎児期・乳児期	胎児の能力、周産期の行動発達、乳児の能力
4	乳児期	身体・運動の発達、知覚の発達、知性の発達
5	幼児期	知性の発達、ピアジェの発生的認識論
6	幼児期	社会性の発達、愛着の発達、愛着の個人差、遊びの発達
7	児童期	知能の発達、思考の発達
8	児童期	社会性の発達、発達障害のある子どもの支援
9	思春期	身体と性の発達、他者との関係の発達、社会の中での発達
10	青年期	アイデンティティの形成、友人関係の変容
11	成人前期	成人前期の発達課題、人生の選択（就職や結婚）
12	成人後期（中年期）	ライフサイクルの変化、アイデンティティの再体制化
13	老年期	認知機能や知的機能の加齢変化、適応理論、死の受容
14	これまでの講義のまとめ	生涯発達の観点から障害を考える、発達支援の方向性
15	定期テスト	

●成績評価	定期テスト（80%）＋出席・小テスト（20%）
●教科書	スタンダード発達心理学（ライブラリスタンダード心理学７）　サイエンス社
●参考書	図でわかる発達心理学（福村出版）、乳幼児の発達臨床心理学（北大路書房）他、授業内で提示する
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	総合心理学	●講師名	飯田　成敏
●授業のねらい	心理実験と調査を題材に、実験計画法とデータ解析の基礎、心理学論文の書き方の習得を目指す。具体的には、実験と調査を実際に体験し、そのデータ処理を行なった上で、レポートを作成する		
●学習目標	心理学における研究法の基本的な考え方を習得する。 心理学論文の書き方を習得する。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と今後の予定
2	実験体験(1)	係留効果実験、平均値の解説
3	実験計画の基礎(1)	実験群と統制群、独立変数と従属変数、標準偏差の解説
4	実験計画の基礎(2)	剰余変数の統制
5	実験(2)・実験計画の基礎(3)	短期記憶と系列位置効果の実験、実験計画批判
6	有意差検定の基礎	実験計画法と有意差検定の論理
7	実験(3)	ストループ干渉実験
8	論文の書き方(1)	実験(3)を元にしたレポート作成の解説(1)：目的と方法
9	論文の書き方(2)	実験(3)を元にしたレポート作成の解説(2)：結果と考察
10	実験(4)	質問紙法による性格検査の実施
11	調査法の基礎(1)	調査研究の基礎と相関分析
12	論文の書き方(3)	実験(4)を元にしたレポート作成の解説と文献の引用
13	調査法の基礎(2)	標本調査の基礎
14	統計解析・概説	主な統計的解析手法の概要
15	心理学と科学	心理学と科学的方法論、科学的思考

●成績評価	実験のレポート(3回：75%)　授業内のクイズなどの課題(25%)
●教科書	指定しない。必要な資料は毎回授業内で配布する。
●参考書	授業内で適宜紹介する。
●備考	実験、調査の実習を行うため、講義への積極的な参加を求める。 対面での授業を予定しているが、新型コロナの感染状況によりオンライン授業に変更する可能性もある。 オンラインの場合はZoomによるリアルタイムでの配信とし、実験の内容に変更の可能性がある。

令和4年度授業計画

●科目名	言語学	●講師名	牧野真也
●授業のねらい	共通日本語の言語事実を素材として言語学の基礎をなす諸概念を身につけます。		
●学習目標	・言語学の基本的な用語とその定義を理解しましょう。 ・学問の体系性を理解しましょう。 ・国試に向けた自己学習の基礎を身につけましょう。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	序論	言語学の対象、人間のことばと言語、語彙＋文法としての言語
2	序論	記号の体系としての言語、言葉の二重分節と分節素・形態素
3	形態論	語の構造と形態論、語と形態素、形態素の種類
4	形態論	語形成と語形変化、日本語の動詞活用形の形態論的分析
5	形態論	形態素と異形態、異形態交替としての連濁・母音交替・音便
6	統語論	文の構造と統語論、文と語・形態素、直接構成素分析
7	統語論	統語範疇、文構造を生成する原理、時制句としての文
8	統語論	補文構造と受動文・使役文・使役受動文・受益構文
9	類型論	言語普遍相、語順の類型論と基本語順、日本語の類型論的特徴
10	文字論	表意文字と表音文字、日本語の文字、漢字の原理
11	意味論	意味論の対象、意味とは何か、弁別的意味素性と成分分析
12	意味論	語彙と意味関係、比喩と多義語、内容語と機能語
13	意味論	文の中核的意味、テンス、ポラリティー、アスペクト
14	意味論	モダリティ、ヴォイス、動詞の語彙的アスペクト
15	語用論	意味論と語用論、敬語、直示表現と授受動詞

●成績評価	試験
●教科書	風間喜代三他『言語学 第2版』東京大学出版会、2004年.
●参考書	授業中に紹介します。
●備考	進度が非常に速いので十分な予習と復習が必要となります。

令和4年度授業計画

●科目名	音声学	●講師名	牧野真也
●授業のねらい	共通日本語の言語事実を主たる素材として音声学の基礎をなす諸概念を身につけます。		
●学習目標	・音声学の基本的な用語とその定義を理解しましょう。 ・学問の体系性を理解しましょう。 ・国試に向けた自己学習の基礎を身につけましょう。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	序論	コミュニケーションとその分類、言語コミュニケーションと音声
2	序論	音声の聴覚的特性、音声器官の名称、IPA、単音とその産出過程
3	子音	子音の分類基準、肺臓気流機構子音（破裂音・鼻音・はじき音・ふるえ音）
4	子音	肺臓気流機構子音（摩擦音・接近音）
5	子音	二重調音と二次的調音、破擦化、鼻音化、VOT、有声化と無声化
6	母音	母音の分類基準、基本母音と共通日本語の母音、その他の特徴
7	共通日本語の単音	共通日本語の母音と子音、音連鎖と同化・異化・調音結合
8	音節とモーラ	聞こえ度と音節の定義、音節の構造、音節とモーラ
9	アクセント	分節的特徴と超分節的特徴、アクセントの定義・分類・機能
10	アクセント	共通日本語のアクセント、アクセント核、韻律語
11	アクセント	名詞・動詞・複合語のアクセント、アクセントと母音の無声化
12	イントネーション	ピッチ変動とアクセント・トーン・イントネーション
13	イントネーション	アクセントと韻律語、および、イントネーションと韻律句
14	分節音韻論	二重分節と音韻論、音素と異音、最少対・相補分布と音素分析
15	分節音韻論	共通日本語の音素、弁別素性と余剰素性、音素の自然クラス

●成績評価	試験
●教科書	斎藤純男『日本語音声学入門 改訂版』三省堂、2005年.
●参考書	授業中に紹介します。
●備考	進度が非常に速いので十分な予習と復習が必要となります。

令和4年度授業計画

●科目名	音響学	●講師名	竹内京子
●授業のねらい	音響学の基礎知識を身につける。		
●学習目標	今後の専門科目の授業の理解や将来の言語聴覚士の臨床上に役立つように、音の特性・音声の生成過程・音声の音響分析の基礎について学習し、その知識を応用できるようになる。		
●方法	講義　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	音の生成と伝播	音の生成と伝搬、正弦波（波長・周期・周波数・振動数・振幅）
2	純音と複合音	純音、フーリエ変換、複合音
3	フーリエ解析	基音、倍音、線スペクトル、連続スペクトル、正弦波足し算
4	基本周波数・共鳴とは？	基本周波数の測定、進行波
5	反射と共鳴	音叉による共鳴（共振）、自由端反射、固定端反射、管（声道）の共鳴周波数
6	音声ってどうやって出るの？	呼吸のしくみ、音源フィルタ理論、声道模型実験、食道発声について
7	母音のフォルマント周波数	母音のフォルマント周波数測定、狭帯域分析、広帯域分析
8	子音の音響分析のまとめ	破裂音の特徴、摩擦音の特徴、鼻音その他の音の特徴
9	音圧とデシベル	音圧とは？　デシベルの基準値、聴力レベルと音圧レベルの換算
10	音のスペクトル	いろいろな音を作ってみよう、スペクトルを見てみよう
11	音のデジタル化	短音のスペクトル、ローパスフィルタ、ハイパスフィルタ、バンドパスフィルタ、音源フィルタ理論復習、サンプリング周波数
12	聴覚器官の解剖・聴こえのしくみ	聴覚器官の解剖、可聴範囲、音の大きさ（ラウドネス）、騒音計について、音の高さ、音場の種類
13	様々な音の現象	様々な音の現象、オクターブ、聴覚の錯覚
14	マスキング	マスキングとは？　周波数マスキング、臨界帯域、時間マスキング、様々なマスキング
15	音声の音響分析（その２）	短文の分節ラベリング、定期試験

●成績評価	定期試験と小テストや授業内課題を合計して評価する。
●教科書	「たのしい音声学」竹内京子・木村琢也（くろしお出版）
●参考書	「言語聴覚士の音響学入門」吉田友敬（海文堂）、「図解雑学　音のしくみ」中村健太郎（ナツメ社）
●備考	授業配布プリント以外に授業用を活用する。また、音声の音響分析など、パソコンでの課題提出が多いので、各自、パソコンとインターネット環境を整えておくこと。実習用にマイク付のヘッドセットが必要であるが、初回の授業で説明する。

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	聴覚心理学	●講師名	大沼直紀
●授業のねらい	音の世界の中で生きていく聴覚障害者の聴覚特性をより良く理解し支援できる言語聴覚士としての能力を養う。		
●学習目標	音が生まれ、それが響く過程としての「音響物理学」の初歩を学んだうえで、音によって引き起こされる感覚としての心理学、すなわち「音響心理学」の基礎を知る。それを踏まえ、人が聴覚を通して音、音声、言葉、音楽などを認知し活かしていく力、すなわち「聴覚心理」について理解する。そして聴覚心理学の知識を応用して聴覚障害者に対する補聴カウンセリングの視点が持てるようになる。		
●方法	講義		

●授業計画

回数	項目	内容
1	導入・講義の概要	聴覚心理学を学ぶ意義（対面）
2	聴覚の生理・病理	きこえのメカニズムと聴力の衰え（対面）
3	難聴の聞こえ	伝音難聴と感音難聴、レクルートメント現象、難聴疑似体験（対面）
4	聴力検査	聴覚閾値、オージオメータの機能、オージオグラムの書き方（対面）
5	音の特徴	音の強さ、高さ、大きさの違い（対面）
6	音の測り方	騒音計の機能と使い方、dB(SPL)とdB(HL)（対面）
7	聴力と聴能	聴力と聴能の違い、聴能の評価法（対面）
8	聴覚の知覚レベル	音を聞き取る4つのレベル、検知、弁別、識別、理解（対面）
9	聴覚と視覚の関係	マガーク効果、読話、多感覚併用の効果（対面）
10	難聴者のコミュニケーション	コミュニケーション・ブレイクダウン、訂正方略（対面）
11	音環境の調整	環境騒音チェック、SN比、ヒアリング・ストラテジー（対面）
12	補聴のための最新技術	補聴器と人工内耳の選択・調整、補聴援助システム（対面）
13	聴覚補償と情報保障	バリアフリー・コンフリクト（対面）
14	講義の総括	聴覚をめぐる諸問題のディスカッション（対面）
15	試験	（対面）

●成績評価	試験　100％
●教科書	大沼直紀 監修著『教育オーディオロジーハンドブック』（ジアース教育新社）
●参考書	大沼直紀著『あなたの耳は大丈夫？』（PHP研究所）（絶版につき関連記述を引用し資料として配布する）
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	言語発達学	●講師名	前川圭一郎
●授業のねらい	乳児期から学童期にかけての言語発達について学ぶ。言語発達が、運動や認知、対人関係といった様々な事柄がかかわっていることを捉え、言語発達における基本的な諸理論を習得する。また、ことばの側面から子どもの発達を捉え、言語発達を促すための方法について理解を深める。		
●学習目標	・言語発達に関連する諸理論について学ぶ。 ・乳児期・幼児期・学童期の各発達段階の特徴を理解し、説明することができる。 ・ことばの発達を通して子どもの全体の発達を捉えることができる。 ・言語発達を促進させていくための方法について、代表的な諸理論を学び、説明することができる。		
●方法	(講義)・演習・(その他)		

●授業計画

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	対面：講師の紹介、講義の進め方について
2	定義	オンデマンド：言語とは何か、ことばとは何か
3	言語・機能	オンデマンド：言語とコミュニケーション
4	言語・理論	オンデマンド：コミュニケーションの諸理論と指導
5	言語・発達	オンデマンド：乳児期の言語発達過程について
6	言語・音韻論	オンデマンド：音声としての表出から発話に向けての発達
7	言語・認知発達	オンデマンド：幼児期の言語発達過程について①
8	言語・統語論、意味論	オンデマンド：幼児期の言語発達過程について②
9	言語・語用論	オンデマンド：幼児期から学童期にかけての発達過程
10	言語・読み/書き	オンデマンド：学習のための言語について
11	言語・語り	オンデマンド：語ることの発達
12	言語・個人差	オンデマンド：ことばの発達における個人差
13	言語・支援	オンデマンド：ことばの発達を支援するには
14	言語・第二言語	オンデマンド：第二言語の習得
15	言語発達	テスト：確認テスト

●成績評価	試験と毎回の出席（感想等）
●教科書	「乳幼児期のことばの発達とその遅れ:保育・発達を学ぶ人のための基礎知識」を基礎資料としながら、授業の際には、情報を加えたものを資料として配布する。教科書は、補助教材として用いて活用ください。
●参考書	
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	社会保障制度・関係法規	●講師名	徳永　正
●授業のねらい	社会保障制度の仕組みと内容について、基本的な知識を習得する。		
●学習目標	公的な医療保険や介護保険等の社会保険を中心とした社会保障制度全般について学習するとともに、言語聴覚士法等関連する諸法規の内容を把握する。また、各制度の歴史的沿革や将来の展望についても可能な限り理解を深めることを目標とする。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	年金保険制度	公的年金と私的年金、老齢年金、障害年金、遺族年金
2	社会保障の歴史	救貧法、社会保険、ベヴァリッジ報告、福祉国家
3	医療保険制度（１）	国民皆保険、健康保険、国民健康保険
4	医療保険制度（２）	後期高齢者医療制度、高額療養費制度、混合診療
5	介護保険制度	介護保険創設の意図、要介護と要支援、特定疾病
6	社会福祉の法律	生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法
7	関係法規・言語聴覚士法	民生委員法、予防接種法、医療従事者の資格法
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

●成績評価	出席状況・確認テスト・定期試験により総合的に判断する。
●教科書	指定無し。毎回、資料プリントを配布する。
●参考書	講義の中で適宜紹介する。
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	社会福祉概論	●講師名	佐々木和裕
●授業のねらい	社会福祉の概念を学び、さらに地域福祉について学ぶことを目標とする。		
●学習目標	社会福祉の概念・理念を学び、歴史を学び、生活保護をはじめとする関連制度を理解する。		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	社会福祉の概念	日本の福祉・医療・保健等社会保障の現状について
2	社会福祉の歴史	日本の社会保障の経緯
3	社会保障制度の意義	日本の高齢化と少子化について
4	生活困窮者のための福祉制度・施設	生活保護法について
5	子どものための福祉制度・施設	子ども・家庭福祉について
6	高齢者のための福祉制度・施設	ゴールドプラン・新ゴールドプラン・ゴールドプラン21
7	障害者のための福祉制度・施設	国際障害者年について
8	定期試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

●成績評価	試験
●教科書	令和4年度　リハビリテーション概論
●参考書	国民の福祉と介護の動向.「厚生の指標」9月増刊.2021
●備考	

令和4年度授業計画　　日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	リハビリテーション概論	●講師名	工藤 征四郎
●授業のね	リハビリテーション医学概論に関する基本的知識を習得する。		
●学習目標	リハビリテーション医学基礎知識とリハビリテーション発展の歴史・現状・課題並びにリハビリテーション主要分野の概要等について知識の修得。更には、リハビリテーションと深い関連を有する福祉・医療・保健等について知識の修得。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	①リハビリテーションという用語の意味の変遷	中世及び近世ヨーロッパと現代のリハビリテーションという用語の意味の違い
	②リハビリテーションの定義に関すること及びリハビリテーションの主要分野（５分野）の各定義	全米リハビリテーション協議会の定義 世界保健機構（WHO）による定義
		国連・障害者世界行動計画による定義
		我が国におけるリハビリテーション理念
2	世界のリハビリテーションの歴史的変遷	リハビリテーションの国際的発展過程
		我が国におけるリハビリテーションの発展
		リハビリテーションにかかわる専門職の養成
3	現代におけるリハビリテーションニーズ	国連・障害者世界行動計画におけるリハビリテーション
		障害者運動の影響
		国際障害者年
		障害者プランの推進と障害者基本法
		社会福祉基礎構造改革
4	現代におけるリハビリテーションニーズとリハビリテーションの基本理念	リハビリテーションニーズ
		リハビリテーションの基本理念
	国際障害分類及び国際生活機能分類	国際障害分類と国際生活機能分類
	医療従事者として特に留意すべきこと及び我が国の医学的リハビリテーションの課題と現実	インフォームドコンセント・EBM（根拠に基づく医療） 医療チーム・クリニカルパス・医療安全
		個人情報保護法
		ユニバーサルデザイン 医学的リハビリを巡る過去・現在、医学的リハビリの課題と現実
5～7	リハビリテーションの主要分野とそのサービス体系	医学的リハビリテーション
		職業的リハビリテーション
		社会的リハビリテーション
		教育的リハビリテーション
8	定期試験	

●成績評価	筆記試験100%
●教科書	リハビリテーション概論（手作り最新版）・・・授業中に配布
●参考書	
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	障害児教育概論	●講師名	大沼直紀
●授業のねらい	障害児教育の現状と課題を知り、言語聴覚士として障害児の発達を支援することの教育的意義と関わ		
●学習目標	障害児とその親の「育ち方・学び方・生き方」の事例等を通して障害児教育の理念を知る。特に聴覚障害児教育を取り巻く諸問題の所在を考察することを通して特別支援教育の現状を把握する。また、聴覚言語障害に関する国内外の最新の情報や知見をもとに、言語聴覚士として障害児の教育的課題への関わり方を理解する。		
●方法	講義		

●授業計画

回数	項目	内容
1	講義のねらい	障害児教育をめぐる諸問題の概要（対面）
2	障害児教育の源流と教育の可能性追求の歴史	イタールとモンテッソリー、グラハム・ベルとヘレン・ケラー（対面）
3	障害の発見から教育までの道のり	新生児聴覚スクリーニングとその後の教育・療育（対面）
4	障害児を育てる親	障害児の育ち方・学び方・生き方とコンフリクト（対面）
5	障害児に関わる多様な専門家と特別支援教育	特別支援学校における教育の課題と言語聴覚士に求められる役割（対面）
6	障害者の進路選択、高等教育、就労	障害補償と情報保障、障害者のための世界の大学（対面）
7	試験	（対面）

●成績評価	試験　100％
●教科書	「教育オーディオロジーハンドブック」（大沼直紀 監修著・ジアース教育新社）
●参考書	
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	言語聴覚障害総論Ⅰ	●講師名	専任教員
●授業のねらい	コミュニケーション障害に対する仕事を担うにあたっての基本的姿勢を学ぶ。		
●学習目標	①言語聴覚士の業務の概要を理解する。 ②言語聴覚士を目指すにあたり、学習の概要を知る。 ③コミュニケーションの過程を理解する。 ④言語聴覚士について現状を理解し、職業像を具体的にイメージできる。 ⑤レポート等、規則に沿った記載をすることができる。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	導入・心構え　(浜田)	ガイダンス、ふるまいについて(対面)
2	導入・心構え　(浜田)	カリキュラム(対面)
3	コミュニケーションが滞るとは　(山本)	スピーチチェーン(オンデマンド)
4	コミュニケーションが滞るとは　(山本)	コミュニケーションルート(オンデマンド)
5	コミュニケーション障害と生活　(黒川)	障害と生活　(オンデマンド)
6	障害の定義　(水尻)	国際生活機能分類(オンデマンド)
7	障害の定義　(水尻)	国際生活機能分類(オンデマンド)
8	ADL・QOL・ニーズ（黒川）	
9	言語聴覚療法の歴史　(黒川)	過去から未来への変化と対応(オンデマンド)
10	言語聴覚士に関する法律　(黒川)	言語聴覚士法、保険等(オンデマンド)
11	チームとしての多職種連携　(鈴木)	多職種連携と関わりのある職種(オンデマンド)
12	言語病理学的診断・報告（浜田）	仮説・検証、除外・確定、整理、管理、報告書（オンデマンド）
13	レポート・文献　(阿部)	記載の規定、文献検索、テクニカルライティング(オンデマンド)
14	レポート・文献　(阿部)	記載の規定、文献検索、テクニカルライティング(オンデマンド)
15	試験	試験(対面)

●成績評価	試験　100%
●教科書	『言語聴覚障害学概論』医学書院、『言語聴覚士テキスト第3版』医歯薬出版
●参考書	『言語聴覚士のアルバム』
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	言語聴覚障害総論Ⅱ	●講師名	専任教員
●授業のねらい	言語聴覚士の臨床各領域において、関連する障害や言語聴覚士の役割を理解する。		
●学習目標	小児定形発達の枠組みを理解することができる。発声発語器官に関する解剖図をわかりやすく描くことができる。成人領域では、障害特性に合わせたコミュニケーション手段の例を示すことができる。聴覚領域では、きこえの本質を理解する。 また、各領域における言語聴覚士の役割を理解することを目的にレポートの作成提出を求める。		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	聴覚領域　(小林)	音と聴覚「聞こえとは何か」
2	聴覚領域　(小林)	聴覚障害とは
3	聴覚領域　(小林)	聴覚障害のリハビリテーションの歴史と現状
4	摂食・嚥下領域　(水尻・阿部)	摂食嚥下障害とは
5	摂食・嚥下領域　(水尻・阿部)	嚥下に関連する発声発語器官
6	摂食・嚥下領域　(水尻・阿部)	食べやすい食べ物、食べにくい食べ物
7	摂食・嚥下領域　(水尻・阿部)	嚥下音を聞く
8	成人領域　(水尻・阿部)	コミュニケーション障害者の世界
9	成人領域　(水尻・阿部)	成人領域の障害とは
10	成人領域　(水尻・阿部)	地域リハビリテーション
11	成人領域　(水尻・阿部)	成人業務の流れ
12	小児領域　(鈴木)	小児領域の背景となる考え方
13	小児領域　(鈴木)	必要な「発達」に関する知識
14	小児領域　(鈴木)	定型発達とは
15	定期試験	

●成績評価	試験80%　レポート20%
●教科書	『言語聴覚障害学概論』医学書院、「言語聴覚士テキスト 第3版」医歯薬出版
●参考書	
●備考	試験以外はオンライン(オンデマンドもしくはZoom)で行います。

令和４年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	失語症Ⅰ	●講師名	阿部裕実　浜田智哉
●授業のねらい	失語症の基礎知識（解剖、症状、タイプ分類、鑑別検査）の理解		
●学習目標	言語野の位置と役割を図示し、説明できる 失語症の症状と責任病巣を説明できる 症状と病巣からタイプ分類ができる 失語症の鑑別検査の種類と適応が説明できる		
●方法	(講義)　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	失語症の定義と生活	オンデマンド
2	失語症の定義と生活	確認テスト、資料配布、解説、質疑応答
3	聴くメカニズムとその障害	オンデマンド
4	聴くメカニズムとその障害	確認テスト、資料配布、解説、質疑応答
5	話すメカニズムとその障害	オンデマンド
6	話すメカニズムとその障害	確認テスト、資料配布、解説、質疑応答
7	読むメカニズムとその障害	オンデマンド
8	読むメカニズムとその障害	確認テスト、資料配布、解説、質疑応答
9	書くメカニズムとその障害	オンデマンド
10	書くメカニズムとその障害	確認テスト、資料配布、解説、質疑応答
11	失語症タイプ分類	オンデマンド
12	失語症タイプ分類	確認テスト、資料配布、解説、質疑応答
13	失語症鑑別検査	オンデマンド
14	失語症鑑別検査	確認テスト、資料配布、解説、質疑応答
15	定期試験	

●成績評価	確認テスト7回（70点）＋筆記試験30点
●教科書	標準言語聴覚障害学　失語症学　医学書院
●参考書	適宜配布
●備考	講義は進捗状況により多少前後することがあります。

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	失語症Ⅱ	●講師名	黒川・浜田・阿部・水尻・山本
●授業のねらい	脳画像の見方、標準失語症検査の手続きを理解する		
●学習目標	脳画像所見を見て、病巣や予想される症状を説明できる 標準失語症検査の実施方法を理解し、模擬患者に実施できる		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	脳画像の見方（基本・言語・読み書き）	10/20 オンデマンド
2	脳画像の見方（基本・言語・読み書き）	10/25 資料配布、解説、質疑応答
3	脳画像の見方（脳卒中・認知症）	10/27 オンデマンド
4	脳画像の見方（脳卒中・認知症）	11/1 資料配布、解説、質疑応答
5	脳画像の見方（まとめ）	11/8 演習
6	脳画像の見方（まとめ）	11/8 演習
7	標準失語症検査の見方	11/17 オンデマンド
8	標準失語症検査の見方	11/22 資料配布、解説、質疑応答
9	症例検討	11/28 ワークショップ（脳画像、情報収集、検査）
10	症例検討	11/30 ワークショップ（脳画像、情報収集、検査）
11	症例検討	12/5 ワークショップ（脳画像、情報収集、検査）
12	症例検討	12/7 ワークショップ（脳画像、情報収集、検査）
13	症例検討	12/12 ワークショップ（脳画像、情報収集、検査）
14	症例検討	12/19 ワークショップ（脳画像、情報収集、検査）
15	定期試験	1/5 画像診断、標準失語症検査の解釈に関する

●成績評価	試験100％
●教科書	標準言語聴覚障害学　失語症学　医学書院、　標準失語症検査マニュアル　新興医学出版社
●参考書	適宜配布する
●備考	

令和3年度授業計画

●科目名	失語症演習Ⅰ	●講師名	阿部・水尻・山本
●授業のねらい	スクリーニング検査、標準失語症検査（SLTA)の手続きを理解する		
●学習目標	スクリーニング検査を作成し、模擬患者に実施できる標準失語症検査の手続きを理解し、模擬患者に実施できる		
●方法	講義　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	スクリーニング検査とは	9/6 オンデマンド
2	失語症のスクリーニング	9/13 演習、解説
3	スクリーニングの実際	9/20 ゲストスピーカー
4	模擬スクリーニング	9/27 演習、解説
5	模擬スクリーニング	9/27 演習、解説
6	模擬スクリーニング	10/4 演習、解説
7	標準失語症検査	9/22 オンデマンド
8	標準失語症検査	9/29 対面：演習
9	標準失語症検査	9/29 対面：演習
10	標準失語症検査	10/6 対面：演習
11	標準失語症検査	10/6 対面：演習
12	標準失語症検査	10/13 対面：演習
13	標準失語症検査	10/13 対面：演習
14	標準失語症検査	10/20 対面：演習
15	定期試験	11/1 スクリーニングの流れ・作成、SLTAの手続きや採点法

●成績評価	筆記試験100点
●教科書	標準言語聴覚障害学　失語症学　言語聴覚療法評価・診断学、標準失語症検査マニュアル
●参考書	適宜提示する
●備考	

令和4年度授業計画　　日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	高次脳機能障害Ⅰ	●講師名	山本・黒川
●授業のねらい	高次脳機能障害の臨床の基礎知識を身につける。		
●学習目標	高次脳機能障害の臨床の基礎知識を身に着け、評価課題を各障害ごとにあげることができる。また、評価基準の概要も使用することができる。 基礎知識とは、全般的知識と各論の知識がある。全般的知識は、大脳の解剖、定義である。 各論の知識は定義・病巣・日常生活場面での問題・評価方法である。評価課題は各障害の特徴から５つ以上あげることが求められる。また、評価課題は除外と確定を明確に使い分けることも求められる。		
●方法	講義		

●授業計画

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	進め方、試験・レポートについて
2	定義・分類	高次脳機能障害の定義、分類「配信」
3	定義・分類	高次脳機能障害の定義、分類「試験」
4	記憶、情動	記憶障害、脱抑制、意欲の低下「配信」
5	記憶、情動	記憶障害、脱抑制、意欲の低下「試験」
6	注意、視空間認知・構成	注意障害、半側空間無視、構成障害「配信」
7	注意、視空間認知・構成	注意障害、半側空間無視、構成障害「試験」
8	行為・動作、身体意識・病態認知	失行、身体失認、病態失認、（遂行機能障害）「配信」
9	行為・動作、身体意識・病態認知	失行、身体失認、病態失認、（遂行機能障害）「試験」
10	視覚・聴覚・触覚認知	視覚失認、聴覚失認、触覚失認「配信」
11	視覚・聴覚・触覚認知	視覚失認、聴覚失認、触覚失認「試験」
12	言語	失語症「配信」
13	言語	失語症「試験」
14	認知、コミュニケーション	認知症、認知コミュニケーション障害「配信」
15	認知、コミュニケーション	認知症、認知コミュニケーション障害「試験」

●成績評価	試験（7回：計70点）＋レポート（30点）
●教科書	標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学．医学書院．第3版．2021
●参考書	授業内で必要に応じて提示します
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	高次脳機能障害Ⅱ	●講師名	黒川・浜田・阿部・水尻・山本
●授業のねらい	高次脳機能障害の臨床と評価方法の基本知識を身につける。		
●学習目標	高次脳機能障害について、評価を中心に扱う。そのため、事前に脳の生理・病理・生活について理解をする必要がある（必須）。 評価方法の基本を知ることが第一目標となる。障害を検出するための検査を理解する。検査を理解するということは、課題の理解（課題実施に必要な脳機能の理解）および課題の選択をすることができるということである。よって、上記の検査を理解することが第二目標となる。とくに検査においては、標準検査だけではなくスクリーニング課題も理解することになる。		
●方法	講義		

●授業計画

回数	項目	内容
1	評価の基本・手順	8/31 tune in、情報収集・観察・検査による評価　（対面）
2	検査方法・手順	9/1 定量・定性評価　（対面）
3	検査方法・手順	9/1 定量データ、スクリーニング、ROC曲線（対面）
4	評価の現場	9/5 実際の評価　（対面）
5	言語障害の検出	9/8 失語症の評価　（対面）
6	言語障害の検出	9/8 失語症の評価　（対面）
7	行為・構成障害の検出	9/15 失行・構成障害の評価　（対面）
8	視覚認知の障害の検出	9/15 視覚失認の評価　（対面）
9	記憶障害の検出	9/21 記憶障害の評価　（対面）
10	記憶障害の検出	9/28 記憶障害の評価　（対面）
11	方向性注意の障害の検出	10/3 半側空間無視の評価　（対面）
12	注意・遂行の障害の検出	10/5 注意障害・遂行機能障害の評価　（対面）
13	注意・遂行の障害の検出	10/12 注意障害・遂行機能障害の評価　（対面）
14	認知症の評価	10/19 認知症の評価　（対面）
15	試験	10/31

●成績評価	試験90%　講義で配布する問題を加える　レポート10%
●教科書	標準言語聴覚障害学　失語症学、標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学
●参考書	
●備考	

令和3年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	高次脳機能障害演習Ⅰ	●講師名	黒川・浜田・阿部・水尻・山本
●授業のねらい	観察・記録・言語スクリーニング検査・神経心理学的検査について扱う。評価の基本動作を身につけることを目的とする。		
●学習目標	事前に脳の局在と出現する症状の関係、検出するための課題について理解をする必要がある（必須）。本演習では情報収集・観察から得られた結果から、課題を選択し実行できることを目標となる。		
●方法	演習		

●授業計画

回数	項目	内容
1	導入	9/5 発表の進め方、成績評価について
2	発表準備日	10/17 取り組み状況についての中間報告、質疑応答
3	発表準備日	11/21 取り組み状況についての中間報告、質疑応答
4	発表１	1/23 学生：テーマに関する発表
5	発表２	1/23 学生：テーマに関する発表
6	中間テスト	1/26 発表１、２に関する
7	発表３	1/30 学生：テーマに関する発表
8	発表４	1/30 学生：テーマに関する発表
9	中間テスト	2/2 発表３、４に関する
10	発表５	2/6 学生：テーマに関する発表
11	発表６	2/6 学生：テーマに関する発表
12	中間テスト	2/9 発表５、６に関する
13	発表７	2/13 学生：テーマに関する発表
14	発表８	2/13 学生：テーマに関する発表
15	中間テスト	2/16 発表７、８に関する

●成績評価	中間テストの合計、発表に関する評価
●教科書	特に指定はない
●参考書	適宜配布する
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	言語発達障害概論	●講師名	鈴木 圭子
●授業のねらい	発達障害についての全体像を理解し、各障害タイプの診断基準・特性・言語発達障害を知ることで、今後の各論に生かすことができるようにする。		
●学習目標	言語発達障害の要因と障害タイプについて理解することができる 定型言語発達について説明することができる DSMとICDについて理解することができる 各障害の診断基準・障害特性・言語発達障害について説明することができる 言語発達障害の臨床場面をみて、児とご家族への適切な支援について考える		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	発達障害についての基礎知識 DSMとICD	医療・教育・保健福祉における定義と法律 DCMとICDについて
2	知的能力障害	知的能力障害の診断基準、評価と診断
3	コミュニケーション障害	SLI・機能性構音障害・吃音の診断基準、評価と診断
4	自閉症スペクトラム障害(ASD)	ASDの診断基準、評価と診断
5	注意欠如・多動性障害(ADHD)	ADHDの診断基準、評価と診断
6	限局性学習障害(LD)	LD診断基準、評価と診断
7	脳性麻痺・重複障害・運動障害(DCD)	定義、原因、症状、重症心身障害児
8	まとめ	定期試験

●成績評価	試験100％
●教科書	医学書院「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」第3版
●参考書	髙橋、大野　監訳「DSM-5　精神疾患の分類と診断の手引き」医学書院 石田、石坂「言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版』医歯薬出版 （参考書は、講義中には使いませんが、配布資料の引用・参考文献として使用します）
●備考	毎回、講義資料を配布します。

令和4年度授業計画

●科目名	知的障害	●講師名	馬目雪枝
●授業のねらい	知的障害の概念を理解し、その評価と支援について学ぶ。		
●学習目標	①知的障害の診断基準を理解する ②知的障害の原因について理解する ③知的障害児の発達について理解する ④発達検査・知能検査について理解する ⑤知的障害児に対する言語聴覚療法について理解する		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	知的障害とは？知能とは？	DSM-5診断基準、知能の定義・知能観
2	知的障害の病理学的原因①	遺伝子・染色体異常
3	知的障害の病理学的原因②	先天性代謝異常、脳発達異常、TORCH症候群など
4	知的障害児の発達①	発達の特性、記憶の特性
5	知的障害児の発達②	注意の特性、学習の特性
6	知的障害児の言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ①	定型発達における言語発達
7	知的障害児の言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ②	言語の語彙・統語・音韻・語用の発達
8	親支援とは？	親の「子どもの障害」の受容
9	知的障害の評価	発達検査、知能検査
10	発達検査演習①	乳幼児精神発達質問紙
11	発達検査演習②	新版K式発達検査
12	知能検査演習①	田中ビネー知能検査Ⅴ
13	知能検査演習②	WISC-Ⅳ知能検査
14	知的障害児の指導・支援	目標設定と具体的支援（言語聴覚療法）
15	まとめ	

●成績評価	提出物20%　筆記試験80%
●教科書	医学書院「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」第3版
●参考書	随時、紹介します
●備考	

令和3年度授業計画

●科目名	自閉症スペクトラム障害	●講師名	計野ちあき
●授業のねらい	自閉症スペクトラム障害の診断基準や障害特性、言語・コミュニケーション障害の特徴などの知識を身に付ける。また、自閉症スペクトラム障害に適した支援方法を理解し、対象児に合わせて適切に言語コミュニケーション支援ができるよう知識を身に付ける。		
●学習目標	1）自閉症スペクトラム障害の診断基準を説明できる。 2）自閉症スペクトラム障害の臨床上の障害特性について説明できる。 3）自閉症スペクトラム障害の言語・コミュニケーション障害について説明できる。 4）自閉症スペクトラム障害の言語・コミュニケーションを適切に評価できる。 5）自閉症スペクトラム障害に対して有効な支援方法を説明できる。		
●方法	(講義)・演習・その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	自閉症スペクトラム障害とは	DSM-5の診断基準、臨床像など
2	自閉症スペクトラム障害の概念の変遷	カナー、アスペルガー、ウィングの報告など
3	言語コミュニケーションの特性	社会性、コミュニケーション、イマジネーションの問題の影響
4	自閉症スペクトラム障害児の発達	乳児期からの発達特性など
5	幼児期から思春期の支援	親の気づきと、健診、集団参加、就学などライフステージごとの支援について
6	早期発見と家族支援	
7	併存症	知的障害、言語障害、注意欠陥多動性障害の併存など
8	当事者の感じ方、考え方	当事者の書籍より
9	自閉症スペクトラム障害に関連する検査	CARS、PARS、PEP-3など
10	支援方法	応用行動療法やTEACCHなど
11	ケーススタディ①	動画を視聴して評価し、対象児の特性をまとめる
12	ケーススタディ①	評価のまとめより、目標を設定し訓練を立案する
13	ケーススタディ②	動画を視聴して評価し、対象児の特性をまとめる
14	ケーススタディ②	評価のまとめより、目標を設定し訓練を立案する
15	当事者の感じ方、考え方	当事者の書籍より

●成績評価	試験100%
●教科書	「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」第3版　医学書院
●参考書	「自閉症スペクトラム症の理解と支援」 本田秀夫　星和書店
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	言語発達障害演習Ⅰ	●講師名	馬目雪枝
●授業のねらい	問診等の情報収集と併せて、現在の児の発達水準、言語発達水準を把握するために必要な検査に関する知識を身に付ける。さらに、検査結果をもとに、児の状態を言語病理学的に診断し、訓練目標を設定するための知識を身に付ける。		
●学習目標	①支援を開始する症例について適切な情報を収集できる。 ②症例の現在の状態を把握するために適切な検査を選択し、実施できる。 ③問診等により収集した情報と、実施した検査の結果を基に、言語病理学的診断を記述することができる。 ④診断を基に、長期目標・短期目標を設定できる。 ⑤目標に沿った訓練プログラムを作成することができる。		
●方法	(講義)・(演習)・その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	小児の臨床の流れ	情報取集、問診票の作成
2	初回問診演習	ST役と保護者役で、初回問診のデモンストレーション実施
3	種々の言語検査	＜S-S法＞、LCスケール、語彙検査、構音検査など
4	言語検査演習①	国リハ式＜S-S法＞の結果のまとめ
5	言語検査演習②	LCスケールの結果のまとめ
6	言語検査演習③	PVT-Rの結果のまとめ
7	言語検査演習④	質問応答関係検査の結果のまとめ
8	言語病理学的診断	情報収集と検査結果を統合して、児の全体像を記述する
9	ケーススタディ①	事例について、全体像、訓練目標を検討する
10	ケーススタディ②	事例について、全体像、訓練目標を検討する
11	様々な指導・支援方法①	＜S-S法＞での指導・支援
12	様々な指導・支援方法②	語用論的アプローチでの指導・支援
13	様々な指導・支援方法③	AACでの指導・支援
14	様々な指導・支援方法④	TEACCHでの指導・支援
15	まとめ	確認試験

●成績評価	提出物30%、筆記試験70%
●教科書	医学書院「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」第３版
●参考書	随時、紹介します
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	音声障害	●講師名	小林誉子
●授業のねらい	音声障害の臨床について理解し、評価・訓練についても説明することができる。		
●学習目標	・音声障害の定義と病態を説明できる。 ・音声障害の発生メカニズムと分類について説明できる。 ・音声障害の検査・評価について項目を挙げて具体的に説明できる。 ・音声障害の指導・訓練について項目を挙げて具体的に説明できる。		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	声の特性と機能	発声のメカニズム、声に含まれる情報・声の可変性(高さ・大きさ・声質・持続)
2	音声障害の定義	音声障害の定義と病態
3	音声障害の原因	音声障害の発生メカニズムと分類
4	音声障害の検査・評価１	内視鏡検査・聴覚心理的評価・音響分析による評価
5	音声障害の検査・評価２	発声の能力と機能の検査・自覚的評価
6	音声障害の指導・訓練	声の衛生指導・症状対処的音声訓練
7	音声障害の指導・訓練	包括的音声訓練
8	全体のまとめ（定期試験）	定期試験

●成績評価	定期試験（100%）
●教科書	「言語聴覚士のための音声障害学」大森孝一(編).医歯薬出版株式会社.2015
●参考書	「新編 声の検査法」日本音声言語医学会(編). 医歯薬出版株式会社. 2009
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	機能性構音障害	●講師名	鈴木圭子
●授業のねらい	機能性構音障害の評価・訓練を実施することができるようになるために、構音障害の定義と分類を理解し、検査結果のまとめと訓練の立案について学ぶ。		
●学習目標	①発声発語のメカニズムについて理解する ②国際音声記号を用いて、構音を表記できる ③言語・音韻・構音の正常発達について理解する ④機能性構音障害の定義を説明し、誤り方を分類することができる ⑤機能性構音障害の検査を実施し、結果の分析をすることができる ⑥機能性構音障害の鑑別診断、予後の推定、訓練適応について説明することができる ⑦構音障害の訓練を立案し、実施することができる ⑧ご家族支援について理解することができる		
●方法	(講義)・(演習)・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	構音障害の基礎	9/6 発声発語のメカニズム、国際音声記号、構音障害の分類（目標①,②）
2	正常な構音・音韻発達	9/13 言語・音韻・構音の正常発達　（目標③）
3	定義と音の誤り方の分類	9/20 機能性構音障害の定義　（目標④）
4	定義と音の誤り方の分類	9/27 音の誤り方の分類　（目標④）
5	機能性構音障害の評価	10/4 検査　（目標⑤）
6	機能性構音障害の評価演習	10/21,28 新版構音検査　（目標⑤）
7	機能性構音障害の評価演習	10/21,28 新版構音検査　（目標⑤）
8	構音障害の訓練	11/8 鑑別診断、予後の推定、訓練適応　（目標⑥）
9	構音障害の訓練立案	11/11,18 グループワーク　（目標⑦）
10	構音障害の訓練立案	11/11,18 グループワーク　（目標⑦）
11	構音障害の訓練演習	11/25,12/2 発表　（目標⑦）
12	構音障害の訓練演習	11/25,12/2 発表　（目標⑦）
13	構音障害の臨床	12/9,13 ケーススタディ　（目標⑦）
14	構音障害の臨床	12/9,13 ご家族支援　（目標⑧）
15	まとめ	12/23 定期試験

●成績評価	試験100％
●教科書	熊倉、今井『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版』医学書院（5,500円） 阿部：『構音障害の臨床 改定第2版』金原出版(2,800円)
●参考書	本間：『言語聴覚療法シリーズ 改訂 機能性構音障害』建帛社(2,500円)
●備考	演習ではフェイスシールドを持参してください。 講義内容、日程は変更になる事があります。その際は、講義中やクラスルーム内でお知らせします。

令和4年度授業計画

●科目名	器質性構音障害	●講師名	山﨑暁(成人領域)、鈴木圭子(小児領域)
●授業のねらい	器質性構音障害の評価・訓練を実施することができるようになるために、構音障害の定義と分類を理解し、検査結果のまとめと訓練の立案について学ぶ。		
●学習目標	構音障害の定義について説明できる 器質構の定義を説明することができる 原因疾患を説明することができる 音の誤り方を説明することができる 評価を選択・実施することができる 評価の流れを理解することができる 治療・訓練・支援方法を理解することが出来る 発達段階ごとの課題について理解することが出来る 多職種連携の中のSTの役割を理解することができる		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	器質性構音障害の定義と原因疾患	器質構の定義、先天性疾患と後天性疾患について(鈴木)
2	口腔・咽頭の解剖と口腔・咽頭のがん	口腔・咽頭の解剖と舌がんの区分など(山崎)
3	舌がんの植皮	遊離皮弁、有茎皮弁、全層皮弁、分層皮弁(山崎)
4	舌がんの評価とリハビリテーション	舌がんを中心とした評価とリハビリテーション(山崎)
5	口唇口蓋裂の音の誤り方の分類・評価	口蓋裂に伴う問題、スピーチの問題、それらの評価方法について(鈴木)
6	口唇口蓋裂の評価	口蓋裂言語検査について(鈴木)
7	口唇口蓋裂の治療・訓練・支援	手術、補綴手段、言語訓練、発達段階ごとの課題とSTの役割、多職種連携について(鈴木)
8	まとめ	定期試験

●成績評価	講義中に説明します。
●教科書	熊倉、今井『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版』医学書院（5,500円）
●参考書	言語聴覚士テキスト　第3版
●備考	講義内容、日程は変更になる事があります。その際は、講義中やクラスルーム内でお知らせします。

令和4年度授業計画

●科目名	運動障害性構音障害	●講師名	水尻康仁
●授業のねらい	運動障害性構音障害の臨床に必要な基礎知識を身につける。		
●学習目標	この講義では運動障害性構音障害の基礎知識の習得、評価方法を中心に行う。 ①原因となる疾患をあげ、病態を説明できるようになること②運動性構音障害の発声発語器官の運動・構音を観察・記録し、検査を実施できるようになること③模擬症例の情報から、評価に必要な情報を抽出できること、以上の3点を主な学習目標とする。		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	オリエンテーション、定義	対面もしくはzoom：授業の進め方や成績評価についてなど
2	発声発語器官の形態と機能	オンデマンド：運動障害性構音障害に関わる器官について
3	分類と病態（１）	オンデマンド：運動障害性構音障害の分類と病態
4	分類と病態（２）	対面：小テスト＋前回の続き
5	運動障害性構音障害の症状	オンデマンド：各分類の症状について
6	観察・記録（１）	オンデマンド：観察のポイント、記録の仕方について
7	観察・記録（２）	対面：小テスト＋前回の続き
8	スクリーニング検査	対面：スクリーニング検査の説明、作成
9	AMSD（１）	対面：標準ディサースリア検査（AMSD）の実施練習
10	AMSD（２）	対面：前回の続き
11	ICFアプローチ	オンデマンド：ICFの考え方について
12	運動障害性構音障害の訓練	オンデマンド：訓練法の種類と適応
13	模擬症例の検討（１）	オンデマンド：模擬症例を用いた評価練習
14	模擬症例の検討（２）	対面：小テスト＋前回の続き
15	定期試験	

●成績評価	定期試験100%
●教科書	ディサースリア臨床標準テキスト．医歯薬出版株式会社 標準ディサースリア検査.インテルナ出版
●参考書	授業内で配布する
●備考	オンデマンド講義はレポートの提出をもって出席とする、小テストは直前のオンデマンド講義にて内容を説明する

令和4年度授業計画　　日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	嚥下障害	●講師名	阿部裕実
●授業のねら	摂食嚥下障害に関する基本的な知識と機能を理解する。		
●学習目標	１）摂食嚥下障害のメカニズムを理解し、原因と病態を説明できる。 ２）摂食嚥下障害の評価に必要な手続きを説明し、模擬的に実施できる ３）摂食嚥下障害の問題点を抽出し、適切な手技や訓練を選択できる。		
●方法	講義　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	摂食嚥下障害とは	摂食嚥下障害の定義、STが関わる摂食嚥下障害とは
2	摂食嚥下障害のメカニズム①	解剖・生理
3	摂食嚥下障害のメカニズム②	生理的変化、嚥下モデル、小テスト
4	摂食嚥下障害の原因と病態①	症状と誤嚥の分類
5	摂食嚥下障害の原因と病態②	疾患による嚥下障害の特徴
6	摂食嚥下障害の原因と病態③	サルコペニア・栄養管理
7	嚥下調整食	嚥下食と増粘剤の特性、小テスト
8	摂食嚥下障害の検査と評価①	VFとVEの概要
9	摂食嚥下障害の検査と評価②	頚部聴診・スクリーニング
10	摂食嚥下障害の検査と評価③	気管切開
11	摂食嚥下障害の検査と評価④	観察・記録・評価分析
12	摂食嚥下の治療選択①	直接訓練・間接訓練の概要
13	摂食嚥下の治療選択②	直接訓練・間接訓練の実施、小テスト
14	摂食嚥下の治療選択③	介助と口腔ケア
15	試験	試験

●成績評価	試験(75%)、小テスト(15%)、スクリーニング作成(10%)
●教科書	『摂食嚥下リハビリテーシ第３版』医歯薬出版
●参考書	配布資料を中心に行います。その他、参考書については講義内で紹介します。
●備考	講義は進捗状況やゲストスピーカーの日程により前後することがあります。

令和4年度授業計画

●科目名	吃音	●講師名	馬目雪枝
●授業のねらい	流暢性障害（吃音）の定義、診断基準、原因、症状分類などの知識を身に付け、評価法や治療法を適切に適用できる。		
●学習目標	流暢性障害（吃音）を適切に観察評価し、収集した情報とあわせて、適切に記述できる。 年齢や重症度などに合わせて、適切な治療法を選択できる。		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	流暢性障害（吃音）の概念と分類	流暢性障害の基本概念、吃音の発症と進展のメカニズム
2	評価診断の原則と流れ	主要な症状間の鑑別評価、包括的評価
3	評価の実際	吃音症状の評価、心理・認知面の評価、環境面の評価
4	治療①	幼・小児期の発達性吃音の治療
5	治療②	思春期・成人期の吃音の治療
6	クラタリングの評価と治療	クラタリングとは、クラタリングの評価・治療
7	セルフヘルプグループなどとの連携	吃音の自助グループ➡ゲストスピーカー講義
8	まとめ	理解度チェック試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

●成績評価	筆記試験100%
●教科書	「標準言語聴覚障害　発声発語障害」第3版　医学書院
●参考書	随時ご案内します。
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	発声発語・嚥下障害演習Ⅰ	●講師名	山田　英貴
●授業のねらい	発声発語・嚥下障害患者の評価方法を学ぶ		
●学習目標	運動障害性構音障害や摂食嚥下障害の検査を説明できる 運動障害性構音障害や摂食嚥下障害の検査を実施することができる 運動障害性構音障害や摂食嚥下障害がある患者が抱える問題を説明できる		
●方法	(講義)・(演習)・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	運動障害性構音障害の基礎知識	講義（シラバス）の目標確認、前期のおさらい
2	運動障害性構音障害の評価① (呼吸・発声)	呼吸・発声機能の評価方法を学ぶ
3	運動障害性構音障害の評価②（鼻咽腔閉鎖）	鼻咽腔閉鎖機能の評価方法を学ぶ
4	運動障害性構音障害の評価③（発声発語器官）	発声発語器官の評価方法を学ぶ
5	確認試験	標準ディサースリア検査などの確認試験実施
6	確認試験	標準ディサースリア検査などの確認試験実施
7	運動障害性構音障害の評価（症例）	症例を通して評価の流れを学ぶ
8	摂食嚥下障害の基礎知識	講義（シラバス）の目標確認、前期のおさらい
9	摂食嚥下障害の評価 (情報取集・簡易嚥下検査)	情報取集、簡易嚥下検査を学ぶ
10	確認試験	簡易嚥下検査の実技を実施
11	摂食嚥下障害の評価 (嚥下内視鏡検査)	嚥下内視鏡検査の見方を学ぶ
12	摂食嚥下障害の評価 (嚥下造影検査)	嚥下造影検査の見方を学ぶ
13	確認試験	嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査などの確認試験実施
14	摂食嚥下障害の評価（症例）	症例を通して評価の流れを学ぶ
15		

●成績評価	筆記試験などで評価を行う
●教科書	
●参考書	
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	聴覚機能検査	●講師名	小林誉子
●授業のねらい	基本的な聴覚検査の原理・目的について理解し、実施することができる。		
●学習目標	・純音聴力検査の原理・目的を理解し、実施することができる。 ・語音聴力検査の原理・目的を理解し、実施することができる。 ・ティンパノメトリーと耳小骨筋反射検査の原理・目的を理解し、実施することができる。		
●方法	(講義)・(演習)・その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	聴覚検査の予備知識	授業の進め方、各検査の原理・目的について
2	聴覚検査の予備知識	各検査の実施方法について
3	標準純音聴力検査	純音聴力検査の演習
4	標準純音聴力検査	純音聴力検査の演習
5	語音聴力検査	語音聴力検査の演習
6	語音聴力検査	語音聴力検査の演習
7	インピーダンス・オージオメートリー	インピーダンス・オージオメトリーの演習
8	インピーダンス・オージオメートリー	インピーダンス・オージオメトリーの演習

●成績評価	レポート（100%）
●教科書	「聴覚検査の実際 改訂4版」日本聴覚医学会編．南山堂．2017年
●参考書	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版」医学書院．2015
●備考	

令和4年度授業計画

●科目名	小児聴覚障害	●講師名	内藤　明
●授業のねらい	小児聴覚障害の臨床を理解する		
●学習目標	小児難聴の特徴と現状の問題点を理解する		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	小児難聴の特徴	
2	きこえのしくみ	
3	難聴の分類(遺伝子異常,他)	
4	難聴の診断と対応	
5	乳幼児の聴覚検査	
6	新生児聴覚スクリーニングⅠ(意義,等)	
7	新生児聴覚スクリーニングⅡ(耳音響放射:OAE,他)	
8	他覚的聴覚機能検査(聴性脳幹反応:ABR,他)	
9	早期支援	
10	聴覚リハビリテーションⅠ(補聴器,他)	
11	聴覚リハビリテーションⅡ(人工内耳,他)	
12	公的助成制度	
13	難聴児を取り巻く環境と言語聴覚士の役割	
14	まとめ	
15	試験	

●成績評価	試験100%
●教科書	「よくわかる　聴覚障害　難聴と耳鳴のすべて　　編集 ; 小川　郁 ,　永井書店
●参考書	
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	成人聴覚障害	●講師名	内藤　明
●授業のねらい	成人聴覚障害の臨床を理解する		
●学習目標	各疾患の特徴と診断までの流れを理解する		
●方法	講義　・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	聴覚障害の分類と発症機序	
2	聴覚障害の疫学とQOL	
3	伝音性難聴Ⅰ(診断までの流れ,検査含む)	
4	伝音性難聴Ⅱ(診断までの流れ,検査含む)	
5	内耳性難聴Ⅰ(診断までの流れ,検査含む)	
6	内耳性難聴Ⅱ(診断までの流れ,検査含む)	
7	内耳性難聴Ⅲ(診断までの流れ,検査含む)	
8	後迷路性難聴(中枢性難聴)	
9	耳鳴と心身医学	
10	平衡機能Ⅰ	
11	平衡機能Ⅱ	
12	聴覚リハビリテーションⅠ(補聴器)	
13	聴覚リハビリテーションⅡ(人工中耳,他)	
14	まとめ	
15	試験	

●成績評価	試験100%
●教科書	「よくわかる　聴覚障害　難聴と耳鳴のすべて　　編集；小川　郁，　永井書店
●参考書	
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	人工内耳	●講師名	内藤　明
●授業のねらい	人工内耳の臨床を理解する		
●学習目標	先進医療の可能性と限界を理解する		
●方法	(講義)・　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	システムの原理	
2	適応	
3	術前検査と手術・術後の注意点	
4	術後のリ・ハビリテーション(マッピング・聴能言語訓練)	
5	装用後の聴取能	
6	会話聴取能に与える影響因子	
7	残存聴力活用型人工内耳（EAS），聴性脳幹インプラント（ABI）	
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

●成績評価	試験100%
●教科書	冊子　「人工内耳装用者の言語聴取能に与える影響因子」　　内藤　明　著
●参考書	
●備考	

令和4年度授業計画

日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科

●科目名	聴覚障害演習Ⅰ	●講師名	野波尚子
●授業のねらい	聴覚障害の基本的な知識を臨床にむけて活用できるようになること。		
●学習目標	・成人の聴覚障害の種類と特徴について説明できる。 ・小児の聴覚障害の種類と特徴について説明できる。 ・聴覚障害にかかわる支援や制度を理解し、説明できる。 ・聴覚障害におけるSTの役割を理解し、支援や制度について自身で考えることができる。		
●方法	講義　演習　・　その他		

●授業計画

回数	項目	内容
1	成人の聴覚障害	加齢性難聴の特徴と支援
2	臨床に関わる聴覚心理	聴覚疲労、両耳効果などについて
3	成人の聴覚障害	中途の重度難聴・失聴の特徴と支援
4	成人聴覚障害への支援制度	成人聴覚障害者への支援・制度について
5	成人の聴覚障害	先天性難聴の成人聴覚障害者の特徴と支援
6	コミュニケーションモード	コミュニケーションモードについて
7	小児聴覚障害	小児の中途難聴の特徴と支援
8	小児の支援・制度	小児の支援・制度について
9	小児聴覚障害	先天性難聴の特徴と支援
10	幼児用聴力検査	幼児用検査の適応と評価について
11	成人聴覚障害とリハビリテーション	成人聴覚障害者のリハビリテーションについて
12	補聴器と人工内耳	補聴器や人工内耳装用者の支援
13	小児聴覚障害とハビリテーション	小児聴覚障害者のハビリテーションについて
14	補聴器と人工内耳	補聴器や人工内耳装用児および保護者の支援
15	全体のまとめ（定期試験）	定期試験

●成績評価	定期試験（100%）
●教科書	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版」医学書院．2021 「聴覚検査の実際 改訂4版」日本聴覚医学会編．南山堂．2017年
●参考書	
●備考	